ちょっとひと工夫

スモークサーモンの押しずし

三月三日のひな祭りに、こんなおすしを作ってみてはいかがですか。

◎材料（二人前）

すしめし…六〇〇グラム
干ししいたけ…三枚
かんぴょう…二〇グラム
スモークサーモン…十二枚
しその葉…五～六枚
レモン…少々
かいわれ葉…少々

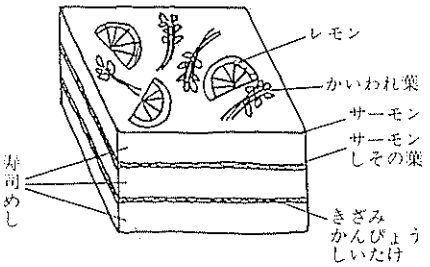
◎作り方

①押し型を水にくぐらしておき、酢でぬらしたふきんでふきます。

②下にラップを敷き、すしめしの三分の一の量を詰めたら、細かく刻んだかんぴょうとしいたけを敷き、ふたで押さえ平らにする。

③その上から、また三分の一のすしめしを押さえスモークサーモンとしその葉（手の平でパチンとたたく）を半量入れ、再びすしめしを入れ、またスモークサーモンの順に並べ、半月切りにしたレモンとかいわれ葉を乗せます。その上にラップをかぶせ、ふたをしてじゅうぶんに押さえワクを静かに持ち上げます。

④型がないときは、丸型や角型のタッパや弁当箱を応用してもよいでしょう。その場合、ラップを広く持ち上げよいくらいに大きくしておくとよいでしょう。



昔からの生活の知恵や暮らしを楽しくする工夫、そんな暮らしの一口メモをお寄せください。あて先は、〒783　南国市大埇甲二三〇一　南国市役所　広報委員会です。

＝同和教育シリーズ＝

眼（まなこ）をひらこう

同和教育推進講座で学んだある学級生は次のように感想を述べています。

〝今までの自分が知らず知らずのうちに、差別意識を持っていたことに気がつきました。このことを学習する前には『同和問題は私たちには関係がない』と思っていましたが、ほんとうはそうではなかったのです。私たちの身の回りにある小さな差別が、だんだんと大きな差別になっていくのです。それが思いやりの欠けた家庭や社会につながっていくことが分かり、今差別ということに関心を持たなければいけないと思うようになりました。「私は親だ」ということだけで子供の人格を押しつけていた自分の生き方を反省させられました。幸いにして、私の子供たちは学校での同和教育で、部落差別の不合理や他人を思いやることのたいせつさを学んでいます。私もこれからはもう一歩前進し、他人の痛みが分かり身の回りの差別やいろいろな差別をなくすことのできる人間になるよう、子供といっしょに歩んでいきたいと思います。〟

南国市では、同和教育推進講座のほかにも公民館活動や各種学級等の学習の中で、人権尊重の意識を養い明るく豊かな社会を築いていくために、啓発活動を実施しています。

同和地区内においても、集会所等において地域の生活文化や教育向上のため、いろいろな学習をしています。

子供を持つ母親を対象とした「あゆみ家庭教育学級」では『今、子育てを考える』というテーマで、いろいろな角度から学習を積み上げ、自己形成や地域の向上のために自らが学習することのたいせつさを学んでいます。

また、識字学級ではおばあさんたちが、読み書きを中心とした勉強に励んでいます。その中には九十五歳のおばあさんもいます。識字学級のあるおばあさんはこんな話をしてくれました。

〝私らあは、昔学校へ行きとうても家が貧しゅうて行けざった。けんど、この識字学級へ来ていっぱい文字を覚えて、目の前が開け世の中の流れが分かるようになりました。ほんとうにうれしゅうてたまりません。嫁や孫が「おばあちゃん、今日は学校へ行く日ぞね」と言って励ましてくれ、孫も「おばあちゃんががんばりゆうき、僕ももっと勉強せないかん」と言ってがんばっております。識字学級は私の生きがいです。これからも、もっともっと長生きしていっぱい勉強したいと思いよります。〟

ほかにも、解放子ども会や、高校生友の会等で、定期的に学習活動を続けています。

このように、同和地区内でも部落解放に立ち向かう学習をしています。

私たちの身の回りには、同和問題に対して、まだまだ間違った考え方が存在しています。部落差別をはじめ、いろいろな不合理や矛盾に気づき、すべての差別を許さない人間になるためには、正しく学習すると同時に単に知的理解で終わらせることなく、自分自身のこととして実践していくことがたいせつです。